

教職員の勤務実態調査の結果について(速報)【概要版】

1 調査の目的

近年学校に求められる役割が拡大するとともに、学校が抱える課題も複雑化・多様化しています。また、文部科学省が実施した教員勤務実態調査においても、教員の長時間勤務が明らかになったところです。

こうしたことから、川崎市教育委員会では、**教職員の意識や勤務時間の実態等を把握**し、授業や授業準備、児童生徒と向き合う時間を確保するなどの対策を効果的・効率的に実施することで「**学校教育の充実**」を図っていくために、教職員の勤務実態調査を実施しました。

2 調査結果

(1) 教員の意識：「授業にやりがい、もっと『授業準備』に時間をかけたい！」

- ・学校業務全体への「やりがい」については、**78.7%の教員が、「とても感じている」または「感じている」と回答**しています。
- ・教員は「**授業**」(67.1%)にもっとも「やりがい」を感じています。
- ・教員は「**授業準備**」(75.2%)に今よりも時間をかけたいと感じています。

(2) 勤務時間等：「勤務時間内に『授業準備』にかける時間が充分にとれない！」

- ・教諭の1日当たりの学内勤務時間については、**小学校が10時間40分、中学校が11時間23分**となっており、正規の勤務時間である7時間45分を大幅に上回っています。
- ・そのため、「**授業準備**」については、**始業前(小学校:77.6%、中学校:74.9%)もしくは終業後(小学校:71.4%、中学校:36.7%)**に行う教員が多い状況です。

(3) 部活動：「学校教育に大きな役割を果たしている！」

- ・**部活動(中学校)**については、**始業前や終業後に行っている**(始業前:29.6%、終業後:30.2%)が、**学校教育において大きな役割を果たしていると考える教職員が大多数**を占めています。(「とてもそう思う」:48.7%、「そう思う」:39.6%、合計:88.3%)
- ・一方、**部活動指導**については、**負担に感じている教職員が一定数います**(35.3%)が、**競技・活動経験がある教職員**(「不安がある」:18.3%、「少し不安がある」26.3%)と比較して、**競技・活動経験がない教員は、指導に対して何かしらの不安を抱えている割合が多い**(「不安がある」:48.5%、「少し不安がある」23.3%)状況です。

3 今後の取組

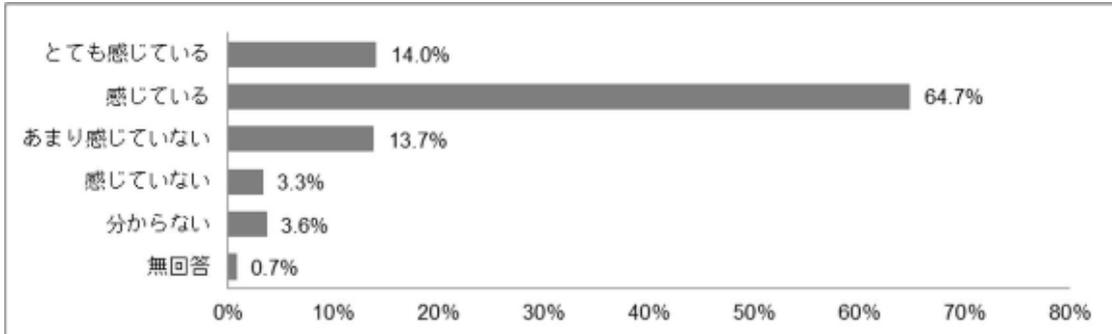
- 勤務実態調査の最終報告に向けて、さらに分析を進めるとともに、**対策を総合的にパッケージ化した「教職員の働き方・仕事の進め方改革の基本的な考え方及び当面の方策」**（平成30年度中）をとりまとめます。
- 総合的な対策パッケージの検討と並行して、教職員事務支援員や部活動指導員の配置、就学援助事務のシステム化、校外研修の整理等、**先行的・モデル的な取組にも平成30年度から新たに着手**していきます。

4 調査概要

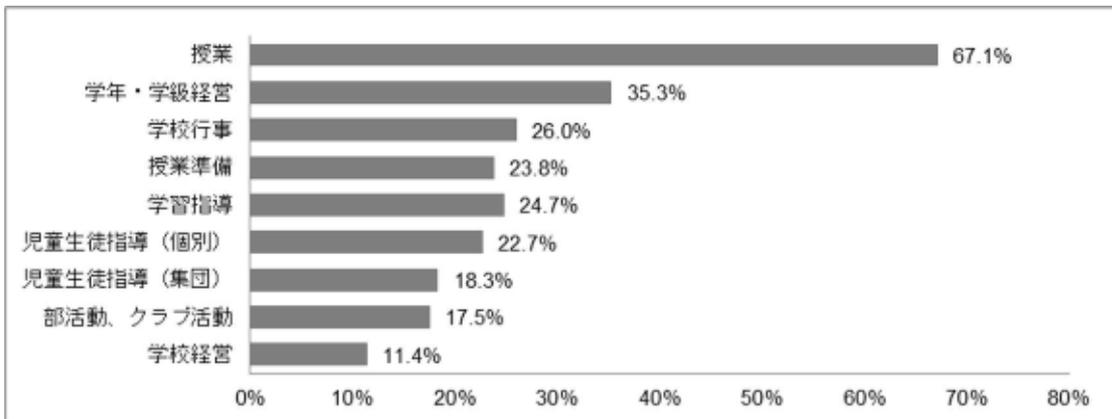
- 時 期：平成29年10月から平成30年2月
- 対 象：川崎市立の小・中・特別支援学校に勤務する正規教職員
- 方 法：アンケート調査(5,099人中4,236人が回答、回答率83.0%)
タイムスタディ調査(業務所要時間調査、25校対象)
ヒアリング調査(6校対象)

【参考】

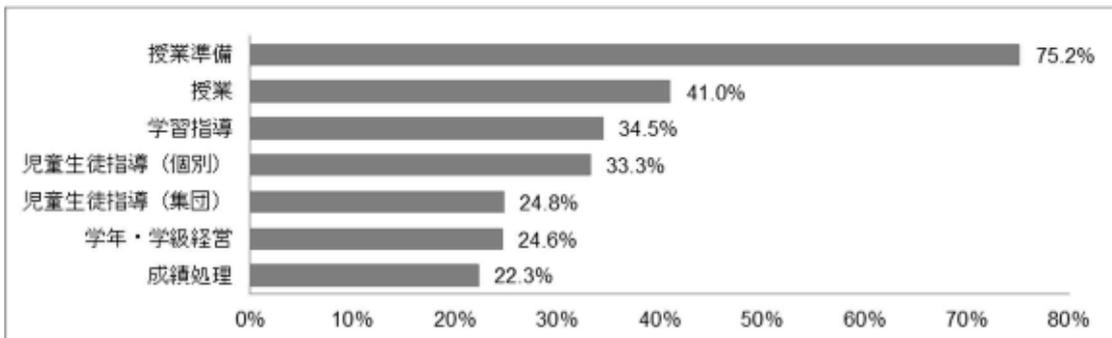
1 学校での業務にやりがいを感じているかどうか（教員のみ）



2 どのような業務にやりがいを感じるか（教員のみ）



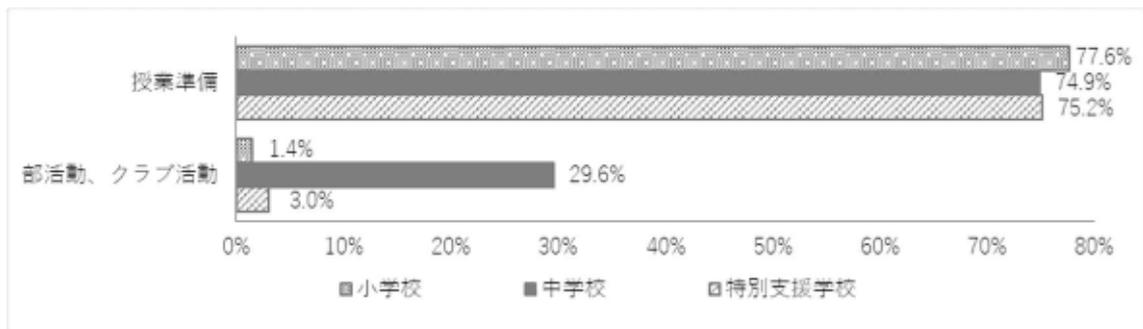
3 今よりも時間をかけて行いたい業務（教員のみ）



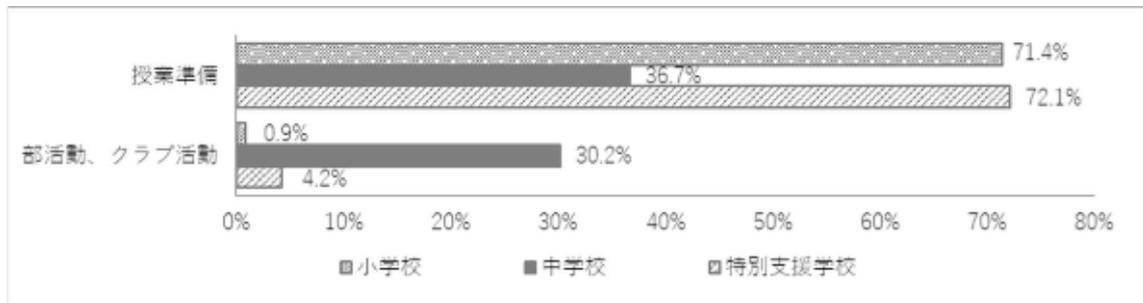
4 1日当たりの学内勤務時間



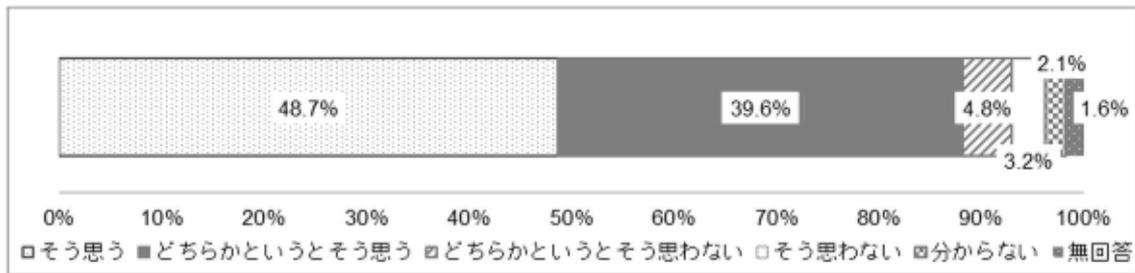
5-1 校種別に見た教員の始業前業務内容



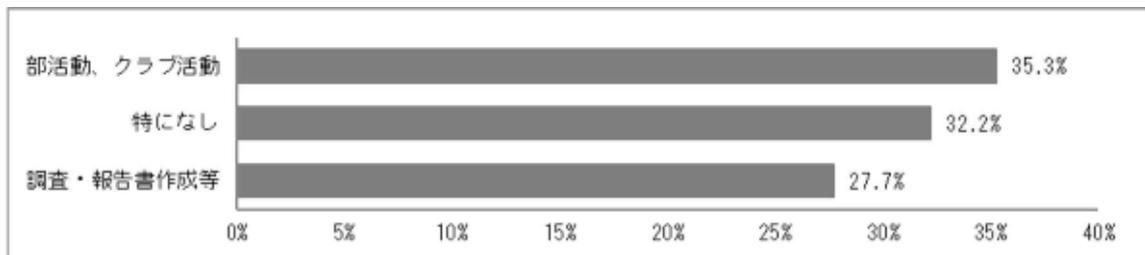
5-2 校種別に見た教員の終業後業務内容



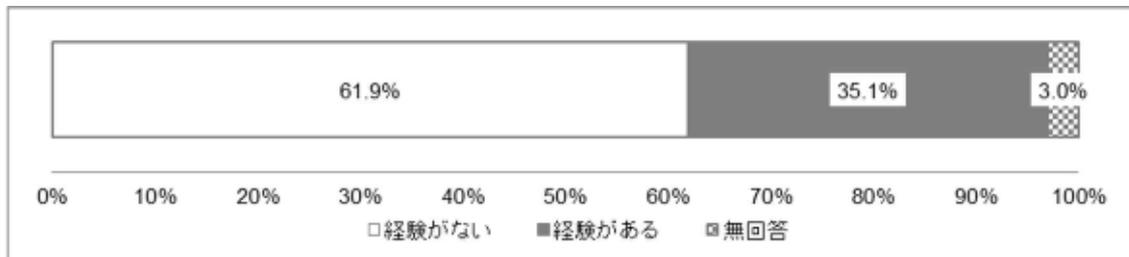
6 部活動が学校教育において大きな役割を果たしていると考えている教職員



7 負担感の強い業務（中学校教職員のみ）



8 部活動を負担に感じている教職員で、競技経験等の有無



9 競技経験等の有無と指導に対する不安の関係

